
メルマガ

NPO 法人市民福祉団体全国協議会・復興支援事務所

NO.11 (2012年10月15日発信)

しっかい！

歩もう	つながろう
支えよう	広げよう
学ぼう	増やそう

★被災地関連情報★

引き続き募集中です！
問い合わせは連絡先へ直接行ってください。

【山元町仮設の女性グループ支援】 中古ミシン提供募集！
連絡先[ささえ愛山元・中村怜子 080-3031-5722]

宮城県巨理郡山元町レポート1

古賀久恵

被災状況（1年7ヶ月を過ぎて）残されている建物
宮城県山元町立中浜小学校の校舎は、耐津波構造になっていたと聞き、現場を見に行ってみました。小学校は波の音が聞こえるくらい海から近距離に位置しています。道を隔てた横には墓地があったようですが、殆どが流され、残っている墓誌も倒れた状態。現在は小学校の建物以外には何も無い、雑草が生い茂っている平地になっています。この小学校、これまで被災地で見た津波に耐えた建物の中では、最も壊れていない状態です。

以下、県のHPで紹介している記事より

「新校舎は平成元年に建てられた。以前の校舎は高潮のたびに校庭に浸水していたため、校地全体を1.5m程度かさ上げした。校舎の土台も堅固で足元からすくわれることはなかった。休日避難用の外階段や円柱の柱、屋根裏倉庫などハザードマップに対応した津波対策が施されていた。屋上施設は、海の方角だけが見える構造で、児童は、過酷な光景を見る事がなかった。校舎内部は、津波で破壊されたが、躯体は実にしっかりしており内装を施せば、まだ使えそうだ。我々は、校舎にそして、この校舎建築に携わった人々に感謝した。」

地元の方から聞いた話では、子どもの数が少ないのに随分と立派な学校を建てたなと思ったのと同時に屋上に屋根裏部屋みたいな倉庫があって不思議だったが、震災時に、あの倉庫に逃げてみな助かったというから、いろんなことを考えて建てられていたのだと感心したという声に変わったそうです。

児童が過酷な光景を見る事がなかったという点、非常に参考になります。これから新設される建物に「心理的な配慮」も入れるように要望していきたいですね。

【手仕事で元気になろう】支援プロジェクトができました(*^_^*) その1

「ふれあいステーション・あい」

佐々木 りほ子（岩手県宮古市）

「あの日から（2011.3.11）二年目だけど、何も始まってない。仮設住宅暮らしが何年続くかわからないし・・・そんなら、仮設住宅暮らしが楽しくなるように、前を向いて生きていくしかないじゃない？」という《手仕事大好き人間》文子さんに会いました。

ふれあいステーション・あいでは、岩手県の震災対応補助金により【平成 24 年度新しい公共の場づくりのためのモデル事業：被災者の自律と自立支援事業】を実施、この企画の一つである『手づくり教室』に文子さんたちが参加して下さったのです。

この事業では、手づくり教室を開催しながら経済的な自立を目指して販売意欲を持てるような支援も考えていました。そこで、ふれあいステーション・あいでは、文子さんとその仲間達が、《手仕事》を通してそれぞれの気持ちが後ろ向きにならないよう、ひたすら前を向いて生きようと励まし合っている姿を見て、「チョッと販売することを考えてみましょうよ」と提案しました。

自分たちが作った物を販売する』というのは初めての彼女たちは、「手縫いで」試作品をつくりあげました。ミシンも流された彼女達へ、毎日新聞《希望新聞》欄の『ミシンを贈る』という情報をお知らせしたところ、彼女達は申請書を作成し必要書類をそろえて申請しました。そして、【ふんばろう東日本支援プロジェクト(西條剛央代表)】様から、3台のミシンが届いたのです。

「ミシンが来たら、益々やる気が出たよねえ～」と何度も何度も口にしながら、次々にアイデアを出して 創作意欲満々です。彼女たちの創造力は素晴らしく、次から次へとアイデアがでてきます。

【ふんばろう東日本支援プロジェクト(西條剛央代表)】の皆様、ありがとうございました。

このプロジェクトへは、特定非営利活動法人市民福祉団体全国協議会様からも支援金をいただきましたので、彼女達が、材料等の購入などで負担する費用が少なくなりました。

皆々様ありがとうございました。

*写真左 寄贈されたミシンで作品作成中の伊藤さん

*写真右 小規模仮設住宅の一角に住んでいます。(集会室や談話室はありません)

